

大井九条の会

大井九条の会
事務局連絡先
83-2358 二上

6月13日の定例会では

最初に防衛省が安保3文書に先立ち、内閣法制局に照会していた「反撃能力について」と題する内部文書の危険性について学習しました。

敵基地攻撃の「計画立案」「目標割当」「指揮統制」「火力発揮」「情報分析」をオペレーションサイクルとして作戦全体を日米が協力して対処していくとしています。さらに元自衛隊幹部が、自衛隊には海外のどの敵基地を反撃してよいかの情報はなく米軍に頼るしかないと話していること。米軍の判断に引きずられ、際限がなくなる。等々学びました。

その後、8月行事の具体的内容について話し合い、7月上旬にはチラシを完成させることにしました。また定例会は次回もオンライン併用で行うことと決めました。

次回定例会
・7月9日(日) 14:00 ~
・生涯学習センター2階

芸術家が世界に果たす役目とは ~音楽の力、バルト3国の歌う革命~

音楽家が世界の人々に果たす役目とは何か。生涯をかけて「反戦反原発」を訴え、そのことを強く教えてくれたのは3月に亡くなった坂本龍一さんだ。

「反対し続けなければ、なくなるはない」という信念を持ち続けた。2001年には坂本さんの呼びかけで、シンディ・ローパーらが参加した「対人地雷廃絶キャンペーンソング」を発売し、利益はすべて地雷除去費用に充てられた。

東日本大震災一年後の12年、脱原発集会では、「たかが電気のために、なんて命を危険にさらされなければいけないか!」と呼びかけ、波紋をよんだ。同年には作家の大江健三郎さんとともに「脱原発基本法」制定をめざす団体を設立。原発を「究極の自然破壊」と位置づけ、再生エネルギーの普及を訴えたことなどが思いだされる。



坂本さんの訃報を受け、内外の著名ミュージシャン

日本国憲法 第二章 戦争の放棄
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

から様々な声が寄せられた。その中で『加藤登紀子さんが語る「百万本のバラ」』という赤旗日曜版の記事を紹介したい。亡くなった坂本龍一さんの追悼も込め、「この100年、私たちは何をしてきたのか、人類はどこに行くのかに思いをはせるコンサート(5月26日/国際フォーラム)にしたい」という。

この歌は私も大好きで、貧しい画家が女優に恋をし広場いっぱいバラをささげる「百万本のバラ」のロシア語の歌詞は映画のひとコマのようだが、原曲ラトビア語の歌詞は全く違う内容だそう。

ソ連が崩壊へと向かう91年。ラトビアの独立運動を報じるニュースがテレビで流れていた。加藤登紀子さんが見たのは、広場いっぱい埋めつくした百万本のバラと武器を持たない人たちが手をつないで戦車を拒むシーンだという。その群衆の先頭に立っていたのが作曲者のライモンズ・パウルス(後のラトビアの文化大臣として来日)だった。

もともと「マールラが与えた人生」というラトビアの子守歌だそうで、大国に翻弄されたラトビアの苦難の歴史が暗示されていた。この「歌う革命」と呼ばれたバルト3国(エストニア、ラトビア、リトアニア)の独立運動を契機にソ連は崩壊。「百万本のバラ」は独立運動のシンボルとなったのだ。

ロシアのウクライナ侵攻から一年余が過ぎた。この歌をロシア語で大ヒットさせた女性ロックシンガーは、ロシアのウクライナ侵攻を批判してロシアを出国したという。夫がプーチンによってスパイに指定されたことを受け「私も同じに扱ってください」と表明。すごい決断だと思う。

核で脅しをかけるプーチンに対し、世界中で即時停戦の声をあげていくことがさらに重要だし、憲法9条をもつ日本こそ平和外交に力を入れるべきだ。

前にも書かせてもらったが、岸田首相が広島出身のはじめての総理であることをいうなら、一刻も早く核兵器禁止条約に署名・批准すべきだろう。核兵器が使われたら人類は滅亡する。核兵器廃絶は急務だ。

林正儀